

医療分野で重要成果目立つ

総合順位 (1-20位)

順位	研究開発者 (発表日)	成果の概要	評価点
1	京都大学 (2月15日)	新型万能細胞、がん化しにくく、マウスの胃・肝臓から作製	10.75
2	東京医科歯科大学など (2月1日)	関節リウマチ薬候補、骨減少と免疫抑制に効果	10.0
3	大塚バイオサイエンス研究所 (12月16日)	乳がん、乳癌外への拡大を防ぐ「免疫」の制御に効果	9.75
4	奈良先端科学技術大学院大学 (12月21日)	がんの免疫抑制、たんぱく質発見	9.67
5	東芝 (12月12日)	フラッシュメモリー、容量8倍、100ギガビット、基本素子で動作	9.6
6	KDDI研究所 (1月8日)	CDアルブミン細胞製造1秒、数センチの通信速度向上、半導体レーザー利用	9.4
7	京大、日産化学工業 (1月17日)	LEDよりどりみどりの、照明多色に	9.3
8	日産、東京歯科大学 (2月22日)	スチレン樹脂防虫剤、4-5年後に実用化	9.3
9	京大、科学技術振興機構 (12月21日)	骨髄移植、がん「免疫」で治療、光ディスク容量増へ	9.0
10	キリンファーマ (12月23日)	微小板凝集剤、治療薬応用めざす	8.86
11	東京工業大学、科学技術振興機構 (2月18日)	新タイプの結核菌物質、不同型の感染も	8.86
12	東北大学、大阪大学など (12月9日)	感染防御の増強にたんぱく質発見、予防薬に期待	8.83
13	理化学研究所など (12月26日)	省電力で電気記録、電流で磁石の向き反転	8.8
14	日立製作所、オプネクスト (2月29日)	光通信向け半導体レーザー、毎秒5ギガビット、実証成功	8.8
15	NEC (2月7日)	シリコン半導体で動作、高出力でも壊れず、価格1/10で実用化へ	8.7
16	理研 (1月2日)	ナノサイズ、配線の電圧制御、超微細な回路	8.67
17	北海道大学、近畿大学、NTTなど (1月15日)	LED、超電導で光20倍速く、量子符号通信に応用	8.6
18	理研など (2月7日)	車用タイヤ、耐久性能高める新技術、高電圧で合成炭素繊維	8.6
19	東北大学、科学技術振興機構 (2月26日)	量子符号の通信距離延長	8.57
20	三菱電機 (12月12日)	高圧電圧トランジスタ、耐電圧性8倍に向上、次世代品を開発	8.57

話題性順位 (1-5位)

順位	研究開発者 (発表日)	成果の概要	評価点
1	国際電気通信基礎技術研究所、科学技術振興機構など (1月15日)	ロボット、サル脳信号で遠隔操作	2.67
2	日産、東京歯科大学 (2月22日)	スチレン樹脂防虫剤、4-5年後に実用化	2.5
3	京大 (2月15日)	新型万能細胞、がん化しにくく、マウスの胃・肝臓から作製	2.5
4	トヨタ自動車 (12月6日)	ロボットで生活支援、家事や高齢者手助け	2.33
5	ホンダ (12月11日)	「アシモ」駆動、お仕事を助けるロボット、自分で判断	2.33

京大・皮膚以外から 発光素子にも高い評価

「発光素子」は、照明や表示などに使われる。京大の発光素子研究は、従来の発光素子とは異なり、皮膚以外から発光する。これは、皮膚の細胞が持つ「発光素子」を利用したものである。京大の研究チームは、この発光素子を、皮膚以外の組織にも導入し、発光させることに成功した。これは、医療分野での応用が期待される。例えば、がんの診断や治療に利用できる。また、皮膚科の治療にも応用できる。京大の研究チームは、今後もこの発光素子の応用を拡大していく予定である。

「発光素子」は、照明や表示などに使われる。京大の発光素子研究は、従来の発光素子とは異なり、皮膚以外から発光する。これは、皮膚の細胞が持つ「発光素子」を利用したものである。京大の研究チームは、この発光素子を、皮膚以外の組織にも導入し、発光させることに成功した。これは、医療分野での応用が期待される。例えば、がんの診断や治療に利用できる。また、皮膚科の治療にも応用できる。京大の研究チームは、今後もこの発光素子の応用を拡大していく予定である。



複数人で作業を分担できるホンダのロボット「ASIMO」

2008年度技術トレンド調査(第1回)

「発光素子」は、照明や表示などに使われる。京大の発光素子研究は、従来の発光素子とは異なり、皮膚以外から発光する。これは、皮膚の細胞が持つ「発光素子」を利用したものである。京大の研究チームは、この発光素子を、皮膚以外の組織にも導入し、発光させることに成功した。これは、医療分野での応用が期待される。例えば、がんの診断や治療に利用できる。また、皮膚科の治療にも応用できる。京大の研究チームは、今後もこの発光素子の応用を拡大していく予定である。



マウスの肝臓細胞から作製したiPS細胞

「発光素子」は、照明や表示などに使われる。京大の発光素子研究は、従来の発光素子とは異なり、皮膚以外から発光する。これは、皮膚の細胞が持つ「発光素子」を利用したものである。京大の研究チームは、この発光素子を、皮膚以外の組織にも導入し、発光させることに成功した。これは、医療分野での応用が期待される。例えば、がんの診断や治療に利用できる。また、皮膚科の治療にも応用できる。京大の研究チームは、今後もこの発光素子の応用を拡大していく予定である。

「発光素子」は、照明や表示などに使われる。京大の発光素子研究は、従来の発光素子とは異なり、皮膚以外から発光する。これは、皮膚の細胞が持つ「発光素子」を利用したものである。京大の研究チームは、この発光素子を、皮膚以外の組織にも導入し、発光させることに成功した。これは、医療分野での応用が期待される。例えば、がんの診断や治療に利用できる。また、皮膚科の治療にも応用できる。京大の研究チームは、今後もこの発光素子の応用を拡大していく予定である。